

湖東・日野祭り撮影会 参加希望は13名(25日現在)

今回は、祭りの日程にスケジュールを合わせた関係で、平日の金曜日から土曜日にかけての撮影会となったためか、例年より幾分少なめの参加者となりそうです。また、ゴールデンウィークの前半ということもあって、それぞれの予定が組まれている方も多かったようです。切は3月末日としてありますが、出欠のハガキをまだ出していない方は早めに投函してください。

■むずかしい日程と場所えらび

一泊撮影会の目的は、親睦を兼ね、たまに遠出して、地方のお祭りや行事等、一人では企画しにくい題材を作品にすること、そして同様に撮ったものでも作者によって変わること等、勉強になることです。但し日程的には公開映写会で発表するとすれば、逆算すると6月一杯ぐらいまでには撮影会を終える必要があります。また、梅雨時は避けたいものです。一方ゴールデンウィークなどは、できればはずしたい、ということもあります。祭りや行事は休日が多いので、撮影会の日程には合いますが、土曜日は例会日が多いので、土・日といっても実施可能な日程は限られます。

一方漁港など働く人を撮りたいときはウィークデーがよいのですが、公式撮影会では、ウィークデーは無理です。

また、行きたい場所の選定もだんだん難しくなってきました。ですから、普段から会員諸氏の情報、推薦が期待されるのですが、なかなか聞こえてこないのが残念です。課題ではありますがどうかご協力下さい。

4月例会のお知らせ

4月例会は、第4土曜26日18時より、梅田の大阪駅前第2ビル5階、大阪市立総合学習センターにて開催します。春らんまん、気候もよし、月1回の楽しい集いにどうぞお越しください。作品の方もお気軽にお持ちください。二次会での作品感想など皆様のご意見を伺ったりすることも上達の秘訣です。

■5月例会日は第5土曜日31日に変更

前月号でも予告しましたが、5月第4土曜日は、日本アマチュア映像作家連盟の総会と重なり、OMCからも数名の主だった世話役さんが例会に出られませんので、やむなく1週間延期いたします。会場、時間はいつもと同じです。どうぞよろしく。

■OMCフェス10月予定会場確保なるか

大阪アマチュア映像連盟と大阪市立中央図書館との共催による「大阪アマチュア映像祭」は昨年同様11月下旬と思われるので、OMCの方を昨年同様、10月にしたいと考えております。但し、10月の阿倍野市民学習センターの会場(講堂)確保が、くじ運次第でどうなるか判りません。

3ヶ月前の申込み抽選なので7月初めの申し込みにおいて「くじ運が良いように」と願っています。また、どなたか、公開映写会によい会場をお知りの方は教えてください。

■第13回、日本を縦断する映像発表会は、6月第1土曜日7日13時より、阿倍野にて恒例の日本アマチュア映像作家連盟主催の映像発表会は6月7日です。いずれご案内が東京の事務局よりあるとおもいますが、メモしておいて下さい。

3月例会レポート

このところ季節の変わり目か、お天気が長続きせず例会日の22日も朝からどんより曇っていた。しかし、ひと雨ごとに暖かくなり桜だよりもきかれるようになってきた。梅田の例会場も大部屋で大きなスクリーンに映写するスタイルが、すっかり馴染んできたようだ。出席者も24名を数え、作品も12本と、時間一杯の盛会となった。司会は安居さん、書記、合原さん、映写係は江村さんと河合さん、受付兼照明係は良枝さんと奥さんの担当で会を進行した。

休憩後の後半初めに、撮影会資料の配布と説明があった。

■出席：有村、今井、江藤、江村、奥、河合、合原、関、進藤、那須、西村、玉井、華岡、松本、前田、増池、森口、森、安居

夫妻、吉岡、渡辺、山本、岩井の24氏。

■上映作品(今月の講評は合原世話役です)

1. ホータン

山本正夢さん 11分15秒

12月例会で発表された「43時間バスの旅」の続編。中国タクラマカン砂漠の荒涼たる風景のあと、ホータンの町に入る。異国情緒たっぷりの映像が観る者を楽しませてくれる。惜しむらくは折角の現地の音を全部消してしまって音楽のみにしてしまったこと。海外ものは、たとえ言葉は判らなくても、BGMと共に生々しい現場の音は入れたいものである。また、ナレーションがあれば、もっと理解が出来たと思う。題材がいいだけに惜しい。

2. 京都、花灯路

森口吉正さん 7分0秒

3月18日までの京都の東山あたりで行われていたイベント「花灯路」を撮影されたもの。寒い夜で、しかも人出が多く、三脚を立てるのもままならないほどだったとか。森口さんの作品では数少ないノンナレ作品だが、こういったしっとりした幻想的な雰囲気伝える作品をめざすなら、ナレーションは不要だろう。幻想的なものを特にねらうなら、説明的な画面は少し減らした方がよいように思う。少し中途半端になった印象は残った。

3. 被災犬フラン

安居良枝さん 8分35分

良枝さん、ますます快調である。この作品なども、自分の言いたいこと、主張がはっきり出ていてよかった。作品のねらい、テーマをどう絞り込むか、お手本のような作品だ。私たちはこれに関連した作品を過去に見ているので理解が早かったが、初めて見る人が、すぐに理解できるかが、いささか疑問ではあるが。阪神大震災に出合ってショックを受けた犬が、道路工事に驚いて或は、震災直後の雪を思い出すのか、降る雪に、狂ったような表情を見せる愛犬フラン。震災後8年も経ち、その間、道路工事や雪も降ったと思うが、その度にPTS特有の狂ったような表情を見せるてきたのであろうか。そういう説明はなかったものの、人と同じで心の奥にそういうものを持

つ症状があることは何となく理解できる。しかし、立派な作品であることは確かだ。

4. 人間って勝手だぜ!

安居利次さん 3分40秒

大阪市内で「わんちゃんワールド」なる犬の展示即売会をやっていたそう。安居さんは、よく、こうした行事を探し出して撮影してこられると感心している。探求心の旺盛な証であろう。犬にも3万円コーナーとか5万円コーナー、高いものは20数万円という犬もあって結構売れているらしい。犬たちの芸もあっておもしろかった。しかし作品としては今ひとつ云いたいことが画面から伝わって来ないのは残念。

5. 大阪城梅林

渡辺雄史さん 5分9秒

パソコンを使った、すごくダイナミックなクレジットタイトルが出てまずびっくりさせられた。が、本編となると、俄然静かな梅林の画面。まず、その落差の大きさに気を奪われる。最近、パソコンで大変動的な、或いは地球規模の壮大なクレジットタイトルが見られるようになったが、やはり、どんな作品にも違和感のないものとなると少し控えめの落ち着いたもの、が無難ではなからうか。しかし昨今のノンリニア時代だから、少しおしゃれで、気の効いたものを作りたいものだが、思うだけでなかなか作れない。

さて、作品だが渡辺さんは大阪城を我が庭のように知りつくし、ボランティアでガイドもなさっておられる由で、よく撮影ポイントを押さえておられる。鳥と梅の花のアップ、観光客の表情、花の名前の由来など、楽しく、判りやすく拝見させてもらった。水仙の花は、梅の花の印象を薄くするだけで無いほうがよいと思う。こうした作品は撮るのは簡単だが、作品としてのレベルを高めるのは難しいものだ。が、本作品は公開映写会に出してもはずかしくない程度の立派な作品と拝見した。

6. 春近し余呉

江村一郎さん 5分2秒

江村作品の上映、となると一瞬、ある種の期待感を持ってしまうのは、今までの江村作品への敬意の表れだろうか。江村さん

は近場の題材（決して本格的な旅での映像というのではなく）を、われわれ一般人では予想もつかないような、ダイナミックな表現で描写されるのが得意な人である。

今回も期待を持って見せてもらったが、いささか拍子抜けの感がした。余呉は、やはり雪深しでないと絵になりにくい。今年雪を求めて余呉へ行かれたが、雪が少なくてがっかり、とは作者の弁。お墓の画面も余呉の早春に似合わないと思うし、春近し、という季節感にあふれるカットが少なかったのも残念。曇天の湖も美しさにかける。来年の冬、再挑戦してほしいものだ。

7. 堂塔伽藍

有村 博さん 9分45秒

奈良はご自宅から比較的近いこともあって、作者の作品には奈良がよく出てくる。

今回の古い建物に絞って構成されたもので、東大寺を始め、あちこちの古い建物を訪れて、ナレーションで説明しておられるので、大変判りやすい作品に仕立て上げられた。また、8ミリフィルム時代に撮影されたカットと現在とを比較したカットなどのうち、薬師寺の東塔の頂きが、当事まだ無かった西塔の礎石の水溜りに影をうつしているカットなど、二度と撮れない貴重なカットだろう。だが、フィルム時代に奥さんを入れて撮った建物は、現在見る建物とほとんど変わっていない筈で、むしろ変わったのは人間の方であるから、この作品は礎石のカットに絞った方がより印象が深まったのではないか、という気がした。また、建物に絞るのなら、古建築の構造の特徴的な部分をアップで強調するなどがほしかった。そのためには建物の数も絞りこんだ方が印象が深まったのではないだろうか。しかし、よく調べてまとめられた。

8. 津野山神楽

河合源七郎さん 11分53秒

河合さんは、よく遠くへ出かけられて余り知られていない各地の行事や祭り、風景を私たちにを見せてくれるので楽しみだ。今回も四万十川の源流の村で、国指定の無形重要文化財という村人たちの神楽を見せて頂いた。酒1本持参して自由に撮影させてもらった由で、近くでよく撮られている。

鬼に抱かれて泣く子供達や、お面をかぶって舞う男たちの仕草が見ていて楽しい。

9. 中山観音節分会

吉岡貞夫さん 9分52秒

中山観音さんは作者のナワバリといった感じで、さすがに第三者では撮れないカットの連続である。宝塚歌劇団月組の美女たちによる節分の豆まき、鬼の舞い、楽団演奏など、近くでふんだんに撮影されており思わず惹きつけられてしまう。ただ現場音で鬼の解説などがなされているが、何と云っているか判りにくかった。必要なら字幕で補う手もあったのではないかな。しかし、実によく丁寧に撮られており立派な作品であった。

10. ジュネーブ

那須典彦さん 6分0秒

スイス観光に旅行されたときの記録。那須さんらしく、三脚を立ててきっちりと撮られている。ツアーで行かれたので撮影時間が充分にとれず残念だった由。従って公園でのカットが多かった。恋人同士のキスシーンなど可成り近くで撮られているので気づかれなかったか気にかかった。

バラの花などのアップが多かったが、海外もので花のアップを多用するのは考えものだ。花園の外国らしいロングのあとにせいぜい1~2カットでいいのではないかな。何故なら日本でもたいていの花は撮影可能だからだ。スイスは山も美しいが街の表情もなかなかいいものがある。楽しい作品だった。

11. 湖東の秋

進藤信男さん 5分36秒

昨秋、永源寺と百済寺に行って撮影されたもの。進藤さんも一作ごとに上達してこられたようで今後が楽しみの方だ。部分的に手持ちのカットがあったが、こういう作品には手持ちカットはマイナスになる。永源寺だろうか、岸壁に石仏が多くあったが1~2カットですぐに消えてしまった。いいカットだけでもっと見たいと思ったが。曇天だったか紅葉の美しさが出ていないのが残念。”秋”がテーマだから、やはり晴天の日に逆光気味の美しい紅葉が欲しいところだ。BGMに、よく知られた童謡のよ

うな曲が流れていたが、こうした作品に合うかどうか。こういう作品は絵の美しさと、それを盛り上げる選曲の良し悪しが大事であることを心掛けて欲しい。

12. 来迎浄土万灯会

玉井 匀さん 11分16秒

進藤さんとはほぼ同じような湖東の百済寺その木立の深いところに引接寺という寺があるそうで、昔、嵯峨野の化野念仏寺と同様に、無縁仏が散乱していたのを集めて供養し始めたという由来があるとのこと。沢山の石仏にろうそくの灯をともし、幽玄の世界が浮かび上がったが、途中、画面が一変して、石仏が集められた昔の写真やら記事やらお坊さんの話が出て、現実に戻されてしまい、アレ、この作者は、何をねらいにこの作品をまとめられたのか、と疑問に思っ見ていたら、再び、幽玄の世界を描いておられた。しかし、最初の感激は再び起こらず、そのまま終わってしまった。いい題材だけに作品構成の失敗は実に残念である。両方を立てるなら、最初の方に歴史や由来などを出しておき、徐々に夜の幽玄の世界へ盛り上げていった方が、見終わったときの印象がより深くなるだろうと思う。脚本を見なおして再挑戦して欲しい。

以上で、作品上映を終わり、居酒屋組と喫茶組に分かれて二次会へと席を移した。

■Hi8テープに赤信号

デジタルカメラが出る前は、Hi8カメラで撮影した人が多かったので、そのときのテープ作品、もしくは未編集でも貴重な映像の写ったHi8テープをお持ちの方はまだ多い筈。今月の例会で司会の安居さんが、ビデオサロンに載っていたと、それについて紹介されていた。テープの劣化が進んでいることと、再生機材の問題である。

Hi8 デッキも使うことも少ないので、今のうちにDVDかDVテープに移し替えておく方が無難という話。ご参考の為。

■今月のインターネット作品

山本正夢さん「ホータン」です。

■インターネット情報

ネット版ニュースをご覧ください。

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>